

A-200X

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書・保証書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオアンプA-200Xをお買い求め
いただきまして、まことにありがとうございました。

A-200Xの優れた性能を十分に発揮させ、長年支障なくお使
いいただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読
みくださいますようお願いいたします。

目 次

特長	1
豊かなAVライフのために	2
オーディオ・ビデオ機器の接続のしかた	3
各部の名称とはたらき	9
演奏のしかた	13
テープデッキの録音のしかた	15
ビデオソースのダビング	17
故障かなと思ったら	19
参考仕様	20
ブロックダイアグラム	21
ヤマハホットラインサービスネットワーク	22

特長

● CLASS A TURBO搭載

入力信号によりA級動作(5W、8Ω)とAB級動作(120W、
6Ω)を自動切り換えするCLASS A TURBO採用と新開
発歪打ち消し回路(ゼロディストーションルール)を設けて、
高品質とハイパワーを同時にお楽しみいただけます。

● デジタル/AV時代に対応して、豊富な入出力端子

本機は、CDを含むオーディオソースばかりでなく、ビデオ
ディスクや、Hi-Fiビデオなどからのビデオソースの接続を
可能にしました。

3系統のAV入力回路を設け、モニターTVを見ながらダビ
ングも簡単にできます。

しかも、サラウンドアンプ等の接続に便利なアクセサリ
端子が装備して、AVシステムの発展充実に最適。

● 高性能イコライザーアンプ

アナログレコードも最高の音質で楽しめるように、MCカー
トリッジをダイレクトに使用できます。

● 操作性のよいフロントパネル

AVシステムのコントロールセンターとして、操作性のよい
パネルレイアウト。

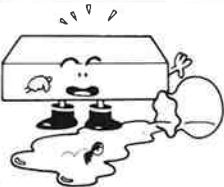
そして、ヤマハ独自の優美なデザインを造りだしています。

豊かなAVライフのために

高温をさけて！

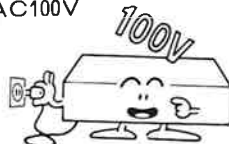


ほこり・水気をさけて！



国内のみ使用可

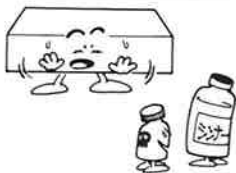
家庭用電源コンセント
AC100V



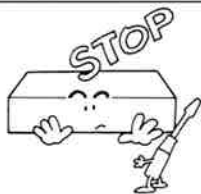
不安定な場所をさけて！



薬物厳禁



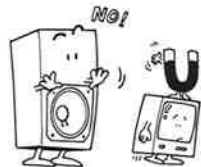
開けないで！



引っばらないで！



磁気・テレビはさけて！



こわれた？



19ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続きを！



取扱説明書はかならず
保管してください。



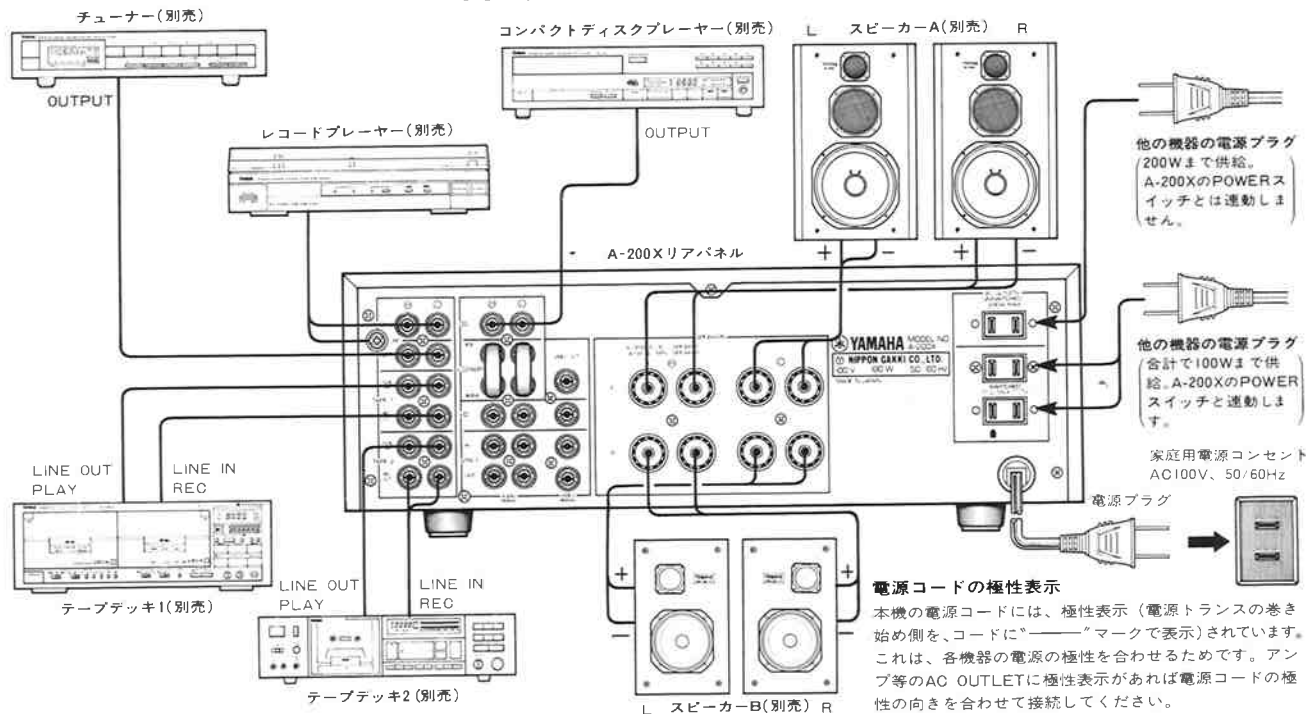
ファイルなど

オーディオ・ビデオ機器の接続のしかた

オーディオ機器との接続図

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して正しく接続してください。

※本機はA級動作時にAB級動作時よりも温度が上昇します。本機をセッティングするときは、放熱を防げない場所を選んでください。



■スピーカーシステムの接続

SPEAKERS端子Aの⑧側に右側のスピーカーシステムを、⑨側には左側のスピーカーシステムを極性(+、-)を確認して接続してください。

SPEAKERS端子Bも同様にもう一組のスピーカーシステムを接続することができます。

※極性が合っていない場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となってしまいますのでご注意ください。

※接続するスピーカーは指定のインピーダンスの範囲内のものをご使用ください。スピーカーを並列に接続して使用する場合、スピーカーの合成インピーダンスが指定範囲を下まわらないように特にご注意ください。

※AまたはB端子だけに接続する場合は6~16Ω。A・B両方の端子に接続されたスピーカーシステムを同時に使用する場合は、A・Bそれぞれのスピーカーシステムが12Ω以上のものをご使用ください。

※接続の際スピーカーコードの露出部分が他の端子に接触しないようにご注意ください。

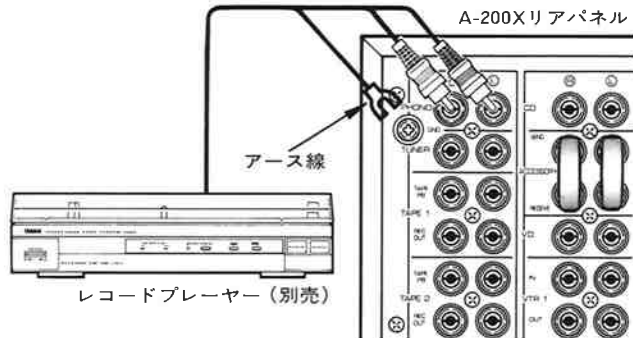
スピーカーコードの先端10mmの絶縁をはがしてください。次にスピーカーツマミをゆるめてコードのワイヤ露出部分を穴に差し込みしっかりとしめつける。



スピーカーコードを下からも接続することができます。

■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続してください。



■CD、チューナーの接続

コンパクトディスクプレーヤー(CD)はCD端子へ、FM/AMチューナーはTUNER端子へそれぞれ接続してください。

■テープデッキの接続

本機では、TAPE1、TAPE2端子にテープデッキの接続ができます。

TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN端子をそれぞれ接続してください。

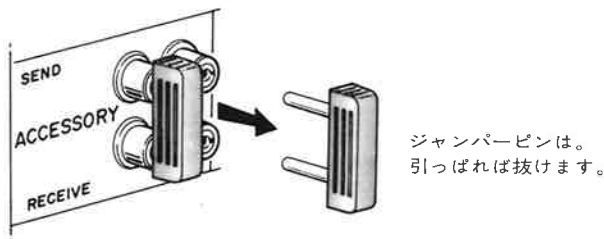
アクセサリ

■ACCESSORY端子の使用

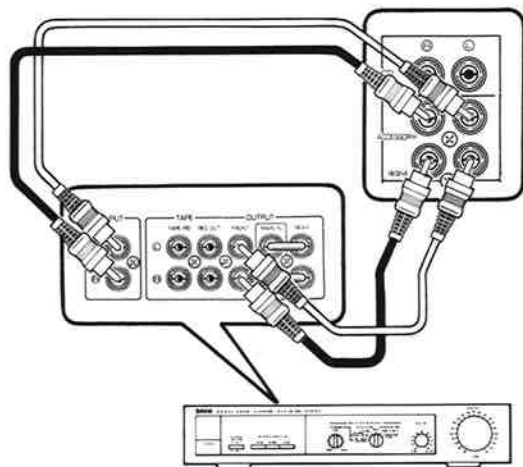
サラウンド・アンプ、グラフィックイコライザー等を使用するときは、ACCESSORY端子に接続します。

ACCESSORY端子よりジャンパーピンを抜き取り、SENDとINPUT、RECEIVEとOUTPUTを右図のように①、②それぞれ接続してください。

なお、ACCESSORY端子を使用しないときは、ジャンパーピンは差し込んだままにしておきます。

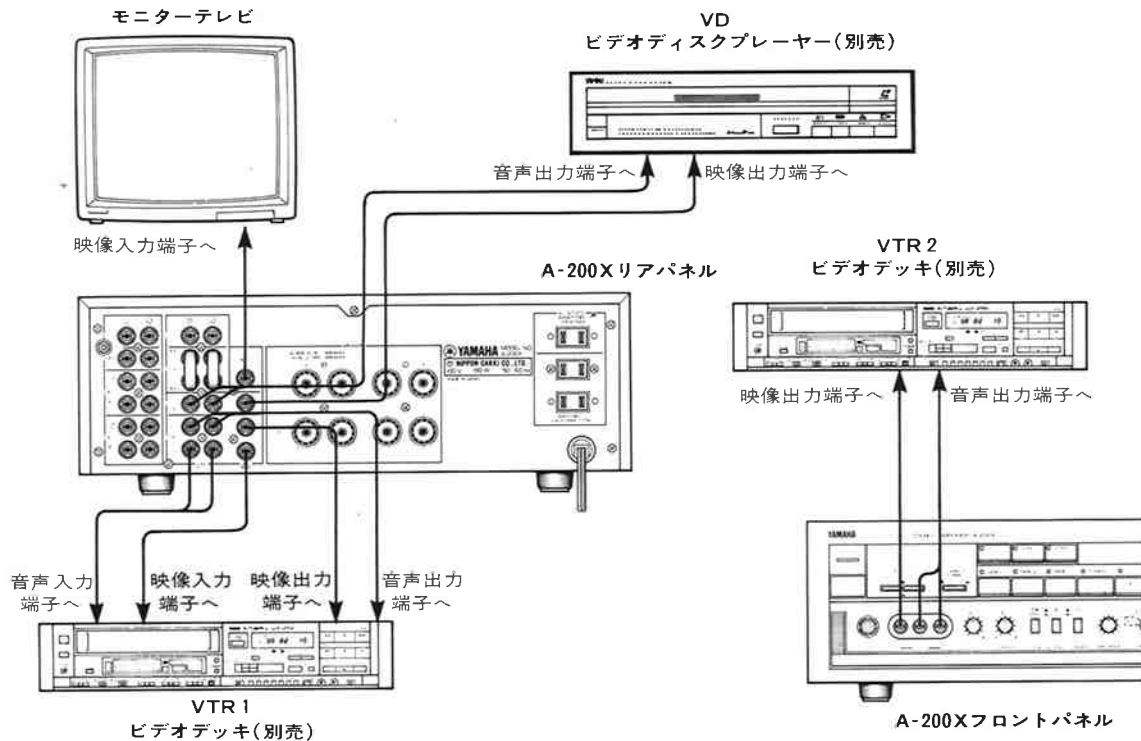


A-200Xリアパネル



サラウンド・アンプ(別売)

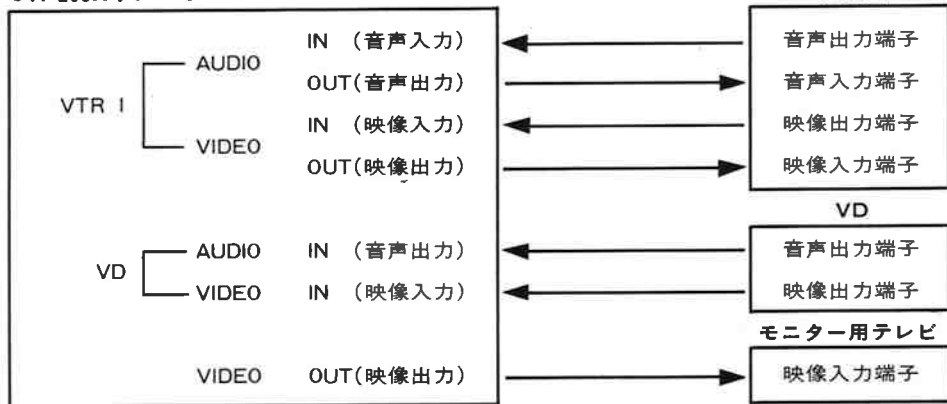
ビデオ機器との接続図



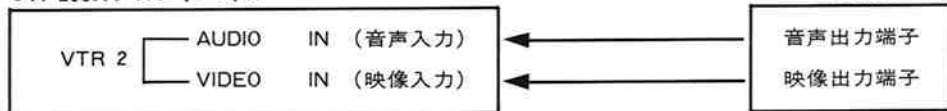
■ビデオ機器の接続

本機は、ビデオディスクやHi-Fiビデオ等のビデオ機器を3台まで接続できます。
また、テレビモニター専用の映像出力端子もあります。下記のように接続してください。
(P6の「ビデオ機器との接続図」を参照)

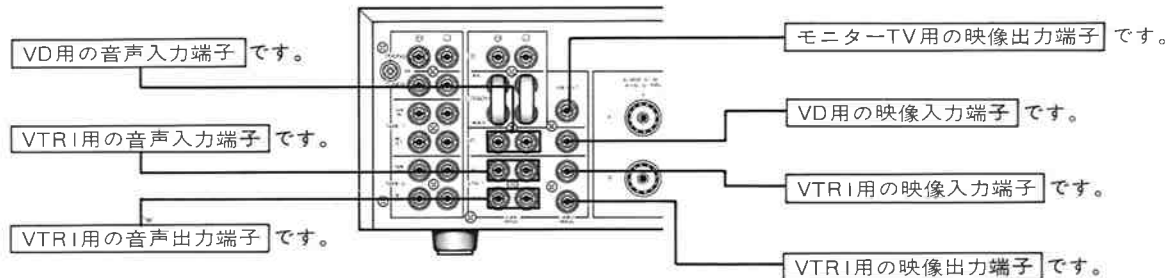
● A-200Xリアパネル



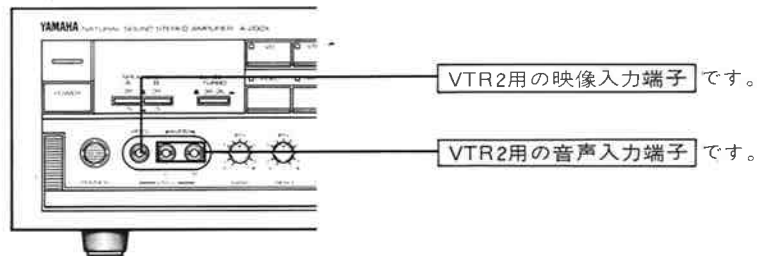
● A-200Xフロントパネル



A-200Xリアパネル



A-200Xフロントパネル



ビデオ機器のダビングができますので、VTR1に録画のできる機器（ビデオレコーダーなど）接続し、VTR2または、VD端子に再生主体の機器（ビデオディスクなど）を接続すると便利です。

VTR2またはVD

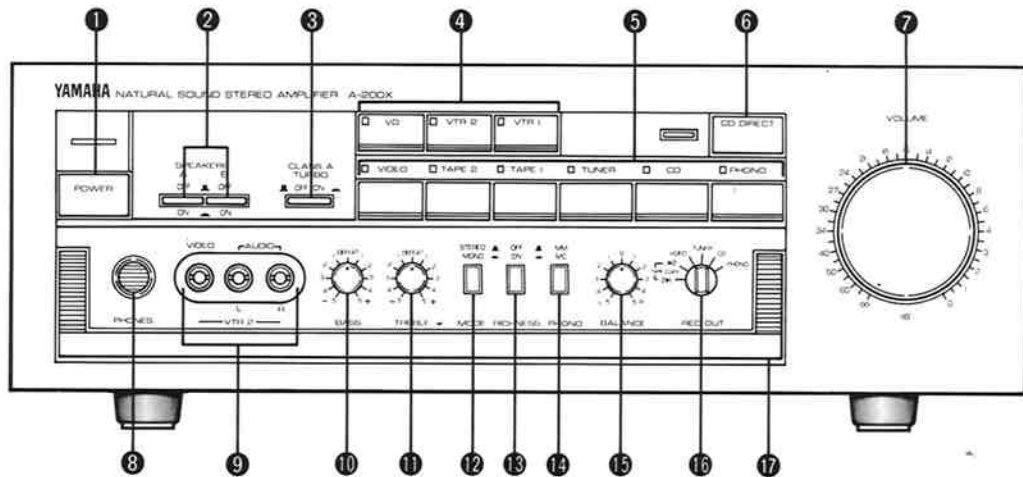
ビデオディスクなど
(再生専用)

A-200X

VTR1

ビデオレコーダー

各部の名称とはたらき



① POWERスイッチ

このスイッチを押すと電源が入り上のインジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れます。

※電源を入れるときは、必ず **VOLUME ツマミ** を最小の位置 $^{\circ}$ に回してください。

※電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音が出ません。

② SPEAKERSスイッチ

本機に接続されたスピーカーシステム(A・B)を選択するスイッチです。

Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。

A・B両方のボタンを押すとA・B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

③ クラス CLASS A ターボ TURBO スイッチ

スイッチがOFFの状態では、本機の動作はAB級(CLASS AB)動作のままですが、スイッチをONにすると、動作はA級(CLASS A)AB級自動切換となります。A級動作では、透明度が高く、歪の少ない音質が得られます。

特性として、A級動作はAB級動作に比べてこのように音質面では有利ですが、能率や消費電力、セットの発熱などの点では不利になりますので、お聞きになる状態に応じてスイッチを切り換えてください。

※A級動作では、AB級動作より無信号時でも常により多くのアイドル電流を流しており、セットの温度上昇を伴いますので、ご使用時の放熱には充分ご配慮ください。

④ ビデオインプットセレクター

ビデオソースを選択するスイッチです。
お好みのビデオソースのボタンを押してください。
(ビデオインプットセレクターで選択された映像信号は、常にビデオアウトに出力されます。)

⑤ オーディオインプットセレクター

プログラムソースを選択するスイッチです。
お好みのプログラムソースのボタンを押してください。

INPUT	プログラムソース
PHONO	レコードを演奏するとき
CD	コンパクトディスク(CD)を演奏するとき。
TUNER	FM放送、AM放送を受信するとき。
TAPE 1	TAPE 1端子に接続したテーフデッキを再生するとき。
TAPE 2	TAPE 2端子に接続したテーフデッキを再生するとき。
VIDEO	ビデオを再生するとき。 (このボタンを押した後、ビデオインプットセレクターで、ビデオソースを選びます。)

⑥ ダイレクト CD DIRECT スイッチ

オーディオインプットセレクターに関係なく CD を選択することができます。
CDのハイクオリティを最優先に、スピーカーに伝えますので、CDならではの音質をお楽しみいただけます。

※CDダイレクト時は、アクセサリ端子に接続された機器、MODEスイッチ、バランスコントロールは、働きません。

7 ^{ボリューム}VOLUMEツマミ

音量を調整するツマミで右に回す(時計方向)ほど音量が大きくなります。

POWERスイッチをはじめ、各スイッチを切り換えるときや、レコードに針を降ろすとき、針を上げるときは一度音量を最小にしてください。

8 ^{ホン}PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンだけでお聴きになりたいときは、スピーカースイッチA・B両方のボタンをOFF にしてください。

9 VTR 2 入力端子

ビデオ機器を接続することができます。
詳しくは、P.7の「ビデオ機器の接続」を参照してください。

10 ^{バス}BASSツマミ

低音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

11 ^{トレブル}TREBLEツマミ

高音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

12 ^{モード}MODEスイッチ

プログラムソースのモードを選択します。
STEREO では通常のスtereoで再生され、MONO ではモノラルで再生されます。

13 ^{リッチネス}RICHNESSスイッチ

このスイッチを押すと右のインジケーターが点灯し、接続されているスピーカーの低域周波数(60Hz)特性が約6dB増強されます。

このときは、有害な超低域成分は自動的にカットされます。

14 ^{フォノ}PHONO スイッチ

ご使用されるカートリッジにより切り換えてください。
MM型カートリッジはMM ポジションで、MC型カートリッジはMC ポジションでご使用ください。

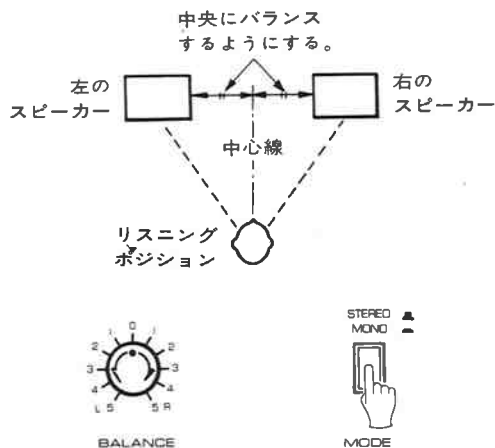
※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますのでカートリッジの取扱説明書をご参照ください。

※レコードプレーヤーP-100X(別売)では、MC ポジションでご使用ください。

15 ^{バランス}BALANCEツマミ

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。ツマミを右(左)に回すと左(右)の音が小さくなります。

バランス調整は、MODEスイッチを"MONO"にし、左右のスピーカーの音が中央に聞こえるようにします。調整後は、モードを"STEREO"に戻しておきます。



MODEスイッチを“MONO”にして
バランスを調整し、調整後は“STEREO”に戻す。

⑥ REC OUT SELECTOR

接続されているテープデッキに録音用の信号を選択して送り出すスイッチです。

インプットセクターに関係なく接続されているプログラムソースを選択して録音することができます。たとえば、レコードを聴きながらREC OUTスイッチをTUNERにしてFM放送をエアチェックすることが可能です。

※VIDEOポジションでは、ビデオインプットセクターで選択されているソースのオーディオ信号がREC OUTされます。

録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、BALANCE、VOLUME、MODE、RICHNESSなどを操作しても録音には影響しません。

⑦ シーリングパネル

ひんばんに操作する必要のないスイッチやコントロール類を収納することができますので、シーリングパネルを閉めておきますと、すっきりとしたパネルフェイスになります。開けるときは、パネル下部を軽く押してください。

演奏のしかた

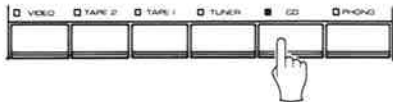
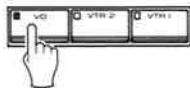
電源を入れる前に接続をもう一度確認しましょう。

- 接続コードのⓁ、Ⓜ及びスピーカーシステムとアンプの極性(+、-)は逆になっていませんか。
 - 接続コードはしっかり接続されていますか。
- また、演奏を始める前は、アンプのボリュームは最小にしておきましょう。

アンプおよび各機器のPOWER
スイッチを押します。

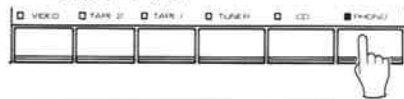


★本機は、音と映像を別々に選択できます。例えば、ビデオディスクを見ながらCDの音を聴くという楽しみ方ができます。

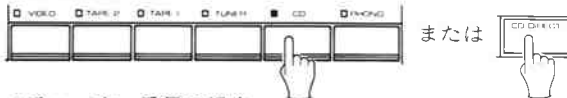


プログラムソースを選択します。

●レコード演奏の場合



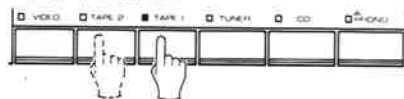
●CD演奏の場合



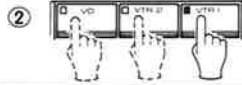
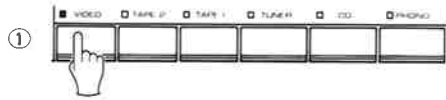
●チューナー受信の場合



●テープデッキの場合

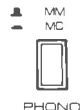


●ビデオの場合



そしてビデオインプットセレクターでビデオソースを選択します。

使用するカートリッジに合わせてPHONOスイッチをセットします。



MM.....■

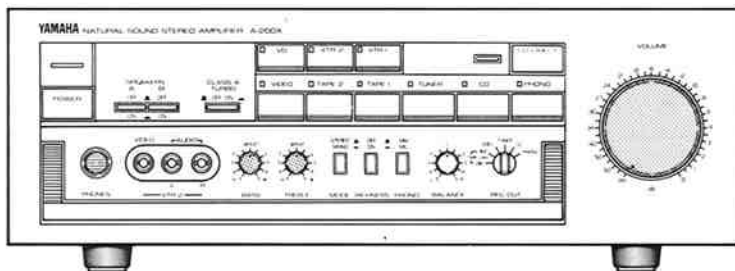
MC.....■

レコードプレーヤ P-100X (別売) をご使用になる時はMC ■ ポジションにセットしてください。

プログラムソースの演奏を始めます。

各機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

アンプの音量や音質を調整してください。



■CD DIRECTスイッチ

CD DIRECTスイッチをONにすると、オーディオインプットセレクターのCDスイッチを押した場合より短い信号経路でCDプレーヤーからの信号をスピーカーに伝えます。CDを良い音質でお楽しみいただけます。

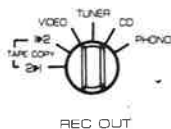
※CDダイレクト時は、アクセサリ端子に接続された機器、MODEスイッチ、バランスコントロールは働きません。

テープデッキの録音のしかた

アンプ、テープデッキおよび録音したい機器のPOWERスイッチを押します。



REC OUTセクターで録音したいプログラムソースを選びます。



録音するプログラムソースをスタートさせます。

テープデッキを操作し、録音を始めます。
(同時に2台のテープデッキに、録音できます。)テープデッキの操作はテープデッキの取扱説明書をご覧ください。

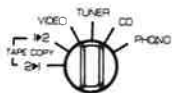
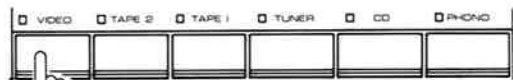
録音内容をモニターする(録音している音を聴く)時は、
インプットセクターの"TAPE 1"または"TAPE 2"
(録音しているテープデッキに合わせて)ボタンを押してください。

■ダブルアクションについて

インプットセクターで選んだプログラムソースを聞きながら、別のプログラムソースをREC OUTセクターで選んで録音することができます。……ダブルアクション
ダブルアクションの主な例は下表のようになります。

インプットセクター	REC OUTセクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。
VIDEO	VIDEO	ビデオをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
VIDEO	CD	ビデオをスピーカーで聴きながらCDを録音できます。

例：ビデオを聴きながら、FM放送を録音する場合



REC OUT

“TUNER”にセットする。

この他にも、インプットセクターとREC OUTセクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

■テープのダビングについて

テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。

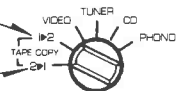
リアパネルTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、

- 1.REC OUTセクターを“TAPE COPY 1▶2”にします。
- 2.テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

(テープデッキ2から1へも同様にして、REC OUTセクターを“TAPE COPY 2▶1”にし、上記2を逆の状態にするとダビングすることができます。)

テープデッキ1からテープデッキ2へダビングする場合

テープデッキ2からテープデッキ1へダビングする場合

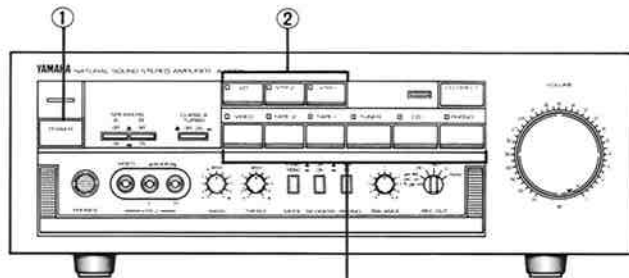


録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、BALANCE、VOLUME、MODE、RICHNESSなどを操作作しても、録音には影響しません。

ビデオソースのダビング

本機は、VTR 2もしくは、VDからVTR 1に(1方向のみ)ビデオソースをダビングすることができます。

- たとえば、ビデオディスク(VD)からビデオデッキ(VTR 1)にダビングする場合



ビデオのダビング中はダビングに関係なくどのソースでも聴けます。

- ①本機およびビデオ機器のPOWERスイッチを押します。
- ②ビデオインプットセレクターの“VD”を押します。
※この状態でVDの出力がVTR 1へ入力することが可能です。
- ③VTR 1に接続したビデオデッキを録画状態にして、同時にVD側を再生してください。

※本機のVOLUME、BALANCE、トーンコントロール、MODE、RICHNESSは、ダビング中の音声に影響しません。

■著作権について

あなたが、放送やレコード、その他の録音物から録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

- *放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
- *従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利(店のBGMなど)のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUMEつまみが絞られている。	VOLUMEつまみを右(時計方向)に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全	接続を確認してください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	BALANCEつまみがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEつまみを正しく調整してください。
	アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
	MCカートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
MCカートリッジの音が小さい。	PHONOスイッチがMMの状態になっている。	PHONOスイッチをMCにセットしてください。

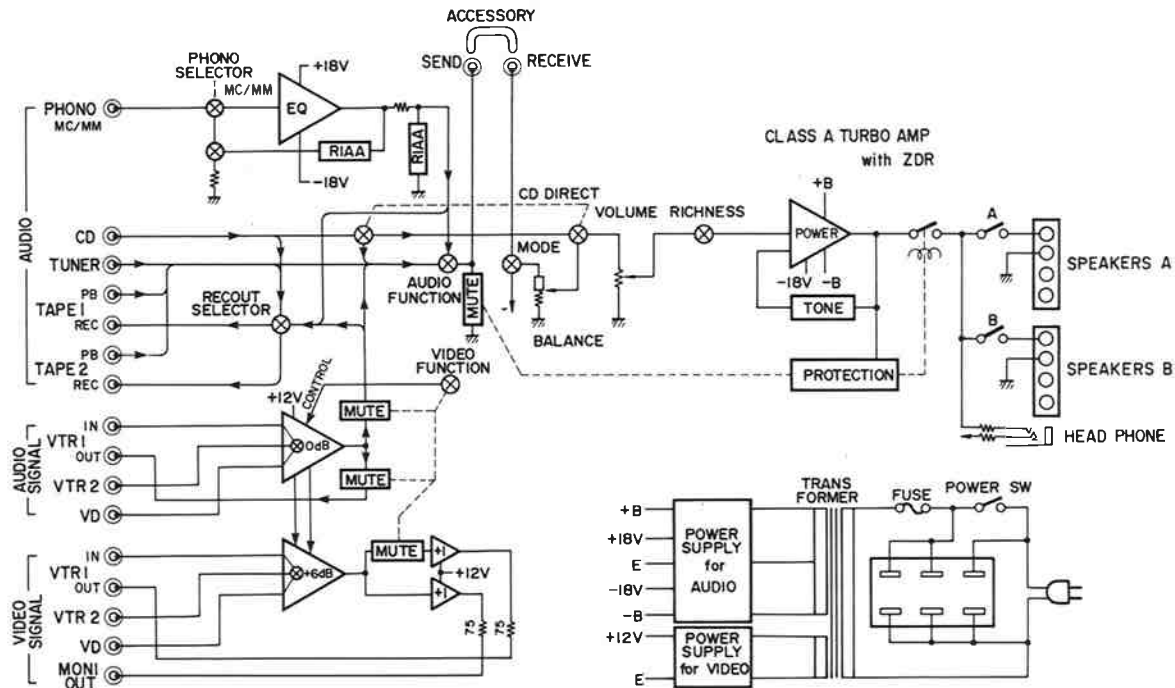
参考仕様

定格出力	
20Hz~20kHz, 0.003% THD, 8Ω	100W+100W
0.003% THD, 6Ω	120W+120W
ダイナミックパワー	
1kHz, 8Ω/6Ω/4Ω	128W/182W/225W
クラスAターボ A級領域	5W/8Ω
パワーバンド幅	
0.03% THD, 50W/8Ω	10Hz~50kHz
ダンピングファクター 1kHz, 8Ω	50
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MC	160μV/100Ω
MM	2.5mV/47kΩ
CD, TAPE, TUNER, ACCESSORY RECEIVE	150mV/47kΩ
VTR1, VTR2, VD 音声	150mV/20kΩ
映像	1Vp-p/75Ω
最大許容入力	
1kHz, 0.01% THD, PHONO MC	10mV
MM	150mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV/470Ω
VTR 音声	150mV/2.2kΩ
出力電圧/最適負荷インピーダンス	
VTR1, VIDEO OUT 映像	1Vp-p/75Ω
ヘッドホン	
0.008%	0.81V/8Ω
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD, TAPE, TUNER, VTR1/VTR2/VD 音声	± 0.5 dB
RIAA偏差	
20Hz~20kHz, PHONO MC	± 0.3 dB
MM	± 0.2 dB

全高調波歪率(20Hz~20kHz)	
PHONO MC→REC OUT(3V)	0.005%
MM→REC OUT(3V)	0.003%
CD, TAPE, TUNER(50W/8Ω)	0.003%
混変調歪率	
CD, TAPE, TUNER(定格出力/8Ω)	0.002%
SN比(IHF Aネットワーク、入力ショート)	
PHONO MC(250μV)/MM(2.5mV)	70dB/86dB
CD, TAPE, TUNER	106dB
入力換算雑音(IHF Aネットワーク)	
PHONO MC/MM	-142dB/-138dB
残留ノイズ(IHF Aネットワーク)	140μV
チャンネルセパレーション(1kHz, Vol. -30dB)	
PHONO MC/MM(ショート)	70dB/70dB
CD, TAPE(5.1kΩ)	65dB
トーンコントロール	
BASS	10dB(20Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	10dB(20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz
リッチネス 60Hz	+6dB
定格電源電圧, 周波数	AC100V, 50/60Hz
定格消費電力	190W
ACアウトレット	
SWITCHED×2	Total 100W max.
UNSWITCHED	200W max.
外形寸法(W×H×D)	340×120×373mm
重量	8.5kg

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがあります。

ブロックダイアグラム



ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を木長く、安心してご利用頂けるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ちり後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。出張料などの経費の点でお得です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示しております。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(0222)36-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL(0534)56-9211
名古屋	〒454 名古屋市中区川原王町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)51-7777 (0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)474-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

本社

ホームエレクトロニクス事業本部サービス技術課

〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111

■ステレオ営業所

北海道	〒064 札幌市中央区南10条1-4 ヤマハセンター内 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル TEL(0222)23-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL(03)255-6767 (03)255-5691 (03)255-2201 (03)255-1825 (03)255-2605 (03)255-4701
横浜	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-4871
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 ヤマハ新潟センター内 TEL(0252)41-2084
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉中央コミュニティーセンター内 TEL(0472)47-6622
水戸	〒310 水戸市三ノ丸1-4-73 三井ビル5F TEL(0292)24-7774
高崎	〒370 高崎市達達町75 ヤマハ高崎月販内 TEL(0273)27-3322

静岡	〒422 静岡市緑ヶ丘町1-15 緑ヶ丘ビル48 TEL(0542)85-4878
浜松	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL(0534)56-4461
名古屋	〒464 名古屋市千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター3F TEL(052)782-7551
北陸	〒920 金沢市本町2-7-1 越田ビル1F ヤマハ金沢ショールーム内 TEL(0762)21-2166
関西	〒556 大阪市浪速区敷津東 1-9-16 ヤマハなんばセンター内 TEL(06)647-6411
中国	〒730 広島市中区八丁堀10-14 TEL(082)221-4123
四国	〒760 高松市丸亀8-7 ヤマハビル7F TEL(0878)22-8642
北九州	〒803 北九州市小倉区堅町2-3-13 ヤマハ小倉センター内 TEL(093)592-3122
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2131

■ヤマハオーディオ日本楽器直営店

札幌店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL(011)512-6126
仙台店	〒980 仙台市一番町2-6-5 TEL(0222)27-8517
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3133
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4327
名古屋店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5153
心斎橋店	〒542 大阪府南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8869
神戸店	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 TEL(078)391-7651
海外拠点	ロシア・モスクワ・ハンブルグ・ スウェーデン・シンガポール・フィリピン

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111(代)

住所および電話番号は変更になる場合があります。

